

新米教師1年目の振り返り

七飯町立七飯中学校

音楽科 教諭 佐藤 圭佑

1. はじめに

昨年4月、私は渡島管内の七飯町、七飯町立七飯中学校に新採用の音楽教諭として着任しました。七飯中学校は、町内の拠点校であり、管内でも大規模校と呼ばれる学校規模です。新採用の音楽科教諭が入ることは初めてだったそうで、何かと考えさせられ、学ぶことの多かった1年であったと思います。1年間を振り返り、この場を借りて総括をしながら、今後の課題を明確化して行きたいと考えます。

2. 1年目で学んだこと

昨年、私の校内組織での役割は、

所属：第1学年 副担任

教科：音楽科（主任）、数学 TT、道徳、総合的な学習の時間

分掌：生徒指導部、南渡島青少年指導センター指導員（校外）

部活動：吹奏楽（主顧問）

というものでした。

新採用という立場でありましたが、担当教科の特性上、学校に1名しか音楽科教諭はおりませんので、必然的に学校行事等でチーフや取りまとめ役を担うことが多くありました。しかしながら、学校規模としては中堅の先生方が多く、チーフとしてそういった先生方に仕事を振るというのは、なかなか神経を使うものでした。それでも、学校組織というものを考えたとき、また学校行事等を円滑に進めることを意識した場合、チーフや取りまとめを行う立場にある教員は、的確に業務の割り振りを行い、調整を行うことが重要である、ということ、様々な場面で学びました。

また、保護者との関わり、地域との関わりについて考えさせられた1年であったように思います。学級担任ではありませんでした。吹奏楽部の主顧問ということで、保護者と関わる機会が大変多くありました。期限付き教諭としての勤務していた時との大きな違いであったと思います。生徒の教育は、学校と家庭と地域で行うものであると、採用試験時から知っていたものではありませんでしたが、実際正採用の教諭として、いざ保護者と接する時は自分自身の経験の少なさを痛感し、反省することばかりでした。

3. 学び続ける教師として

1年間はあっという間でありました。新しい学校のシステムに慣れること、生徒の実態をつかむこと、教科経営、部活動の運営を円滑に行うことに追われ、1つ1つの出来事をじっくりと検証することは、僅かなものしかできなかったように思います。初任者研修もあり、教科関係の研修にも参加できず、部活動のコンクール等と重なり師範塾の講座にも参加できない1年でした。

しかし、これは教師として皆が抱えているものであり、それを押しつけ時間を捻出し、

学び続ける教師としての姿勢を持ち続けるかが重要であると考えた1年でもありました。

業務に圧倒されそうになっても、学び続ける教師として授業を公開し、音楽人として僅かでも修行を積むことができたことは、今後へつなげる行動ではなかったかと振り返ります。

採用2年目の教師として、間もなく1学期が終わろうとしています。時代や社会、学校の雰囲気にもまれることなく、より教師としての崇高な使命を意識し、職責を全うしていく所存です。